

令和 5 年度の屋久島西部地域におけるヤクシカ計画捕獲結果

九州地方環境事務所

1. 目的

- ・西部地域瀬切地区の植生回復を目的に、囲い罠による計画捕獲を実施。
- ・5頭/km 以下を目安に、多頭捕獲を目指す。

2. 誘引捕獲期間

令和 5 年 11 月 給餌・捕獲実施：11/1～11/15（15 日間）

6 年 1 月 給餌・捕獲実施：1/4～1/17（14 日間）

2 月 給餌・捕獲実施：2/9～2/23（15 日間）

3. 実施場所

西部地域瀬切地区の瀬切大橋西側の道下及び道上に設置。

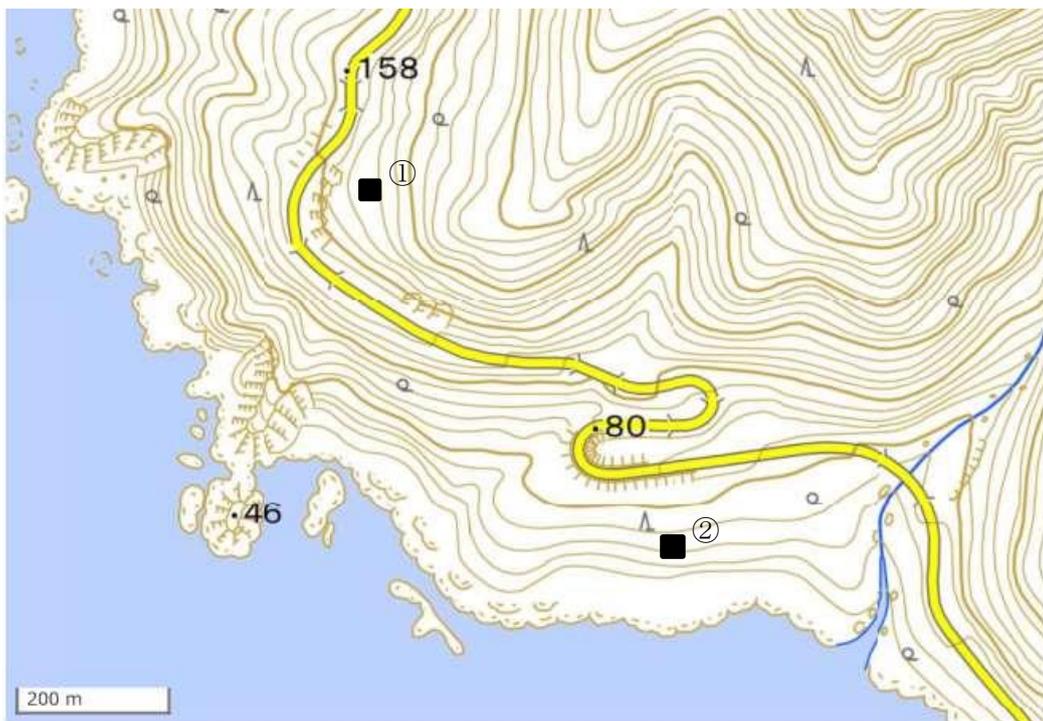


図 1 瀬切地区の囲い罠設置位置（■囲い罠）

4. 捕獲方法

和歌山県果樹試験所で考案された潜り込み式ゲートを使用し捕獲を実施した。

誘引には粉状ヘイキューブを5kg使用し、毎日ゲートの外と内に置いて誘引した。ゲートの外に置いた餌が完食された場合はゲートの外への設置はとりやめ、ゲートの内側に全量5kgの誘引餌を設置した。

ヤクシカがゲートを出入りするようになり、捕獲が可能な場合は都度捕獲を行った。

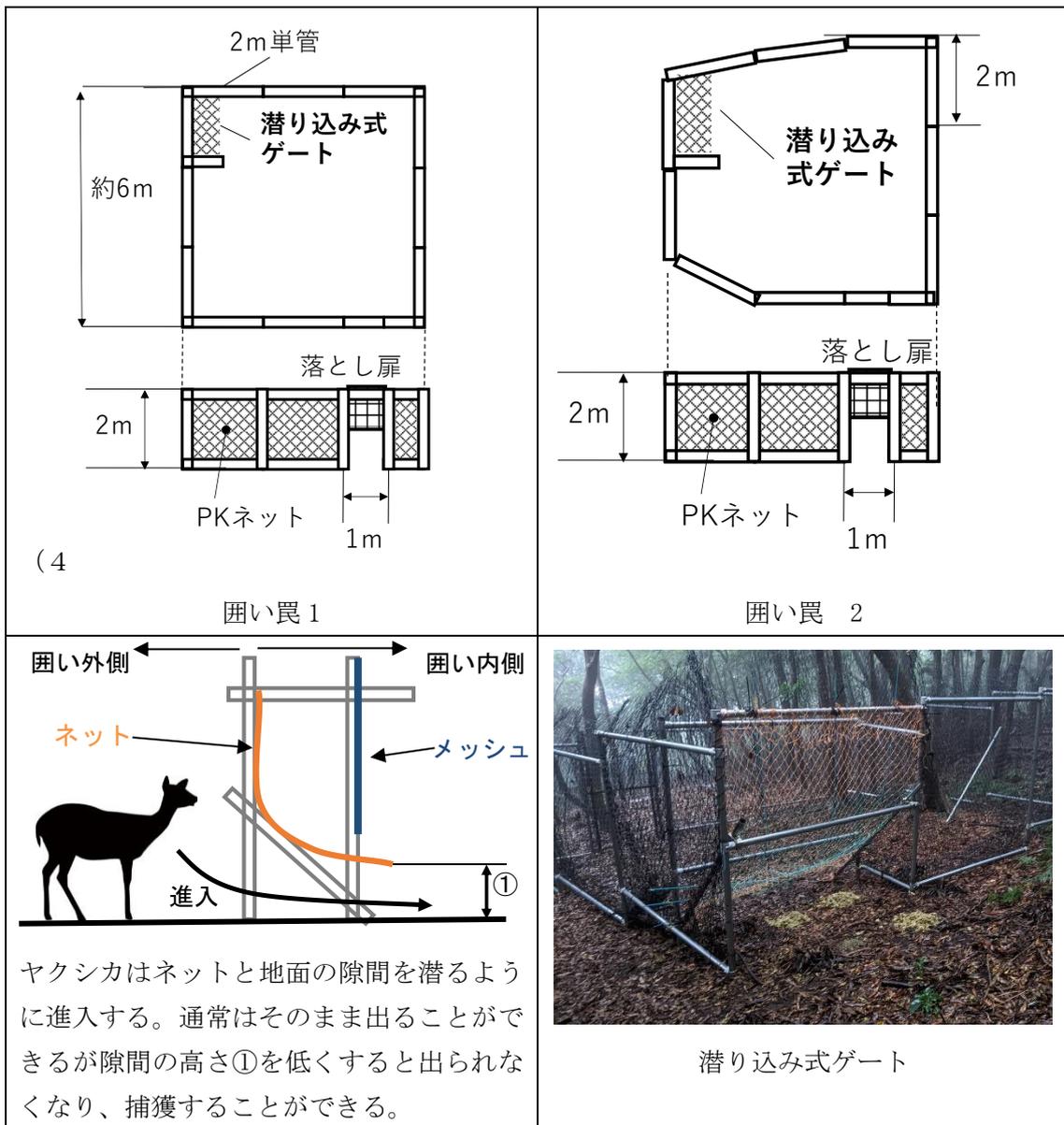


図2 囲い罠の形状

5. 捕獲結果

全体の捕獲結果を表にまとめた（表1）。

11月から2月の合計6週間の誘引作業中に 11頭のヤクシカを捕獲した。

オス7頭、メス4頭とオスの捕獲頭数が多く、捕獲したオスはほとんどが幼獣や角がほぼ生えていない若いオスであった。

令和4年度は捕獲時のゲートの高さを和歌山県のシカを基準にした20cmで設定していたが、ヤクシカはその高さでも出入りをして捕獲できないことがあった。5年度の11月は15cmの高さで捕獲することができたが、それでも出入りする様子が確認された。1月は10cmに設定したが、それでもヤクシカが出入りしていた。

また、オスが入口で暴れ、弾性ポールが地面に引っかかり、たわむことで出口ができてそこから中にいたシカが逃げ出す様子も確認された。

表1 令和5年度捕獲結果

日付	罠い1		罠い2		合計
	オス	メス	オス	メス	
11/13	1	-	2	2	5
11/14	2	1	-	-	3
11/15	-	-	1	1	2
2/16	-	-	1	-	1
合計	3	1	4	3	11

表2 参考：捕獲開始年度からの捕獲頭数

年度	罠い罠	捕獲頭数			作業日数	罠数	捕獲効率 (CPUE)	捕獲効率 (罠1,2合計)
		合計	オス	メス				
令和2年度	1	14	11	3	64	1	0.2188	0.1875
	2	10	7	3	64	1	0.1563	
令和3年度	1	6	4	2	73	1	0.0822	0.0890
	2	7	4	3	73	1	0.0959	
令和4年度*	1	14	4	10	48	1	0.2917	0.2292
	2	8	4	4	48	1	0.1667	
令和5年度	1	4	3	1	44	1	0.0909	0.1250
	2	7	4	3	44	1	0.1591	

*罠い罠1を移設し、自動捕獲装置（落とし扉）から潜り込み式ゲートに改良した。

6. 次年度の捕獲に向けた課題

<1. 捕獲時期>

- ・冬季を中心に実施してきたが、屋久島の低標高地域では1年を通して落ち葉等の餌の供給があり（辻野ほか 2018）、季節による誘引効果の変化は少ないと考えられる。

- ・継続的な捕獲が誘引効果低下につながることも、令和6年度は夏季も含めて1か月以上の間隔をもって捕獲時期を計画する。

< 2. 捕獲場所 >

- ・これまでの捕獲結果から、移設2年目以降に捕獲効率が低下する傾向があるため、捕獲効率を維持するために定期的な囲い罠の移設や増設が必要である。
- ・年度内でも、捕獲を重ねるごとに捕獲数が減る傾向がある。
- ・一方で、年度初めの1回目の捕獲は前回の捕獲から1年近い期間があるため、既存の囲い罠でも捕獲の可能性が期待できる。

< 3. 警戒心 >

- ・捕獲を重ねるごとに捕獲数が減る一因として、止め刺し時に囲い内のシカが激しく暴れることが考えられる。電殺機を用いた止め刺しには、シカのポケットネットへの追い込みやシカの固定、電殺機を使用した際のシカの鳴き声など、場を荒らしてしまう要因が多いのが課題である。
- ・空気銃による止め刺しであれば、作業員がシカに近づかずに仕留めることができ、囲い内でシカが激しく暴れることがないと思われる。また、頭部への狙撃でシカに苦痛を与えず即死させるため、アニマルウェルフェアに留意した手法であり、使用を検討したい。

※空気銃によるシカの止め刺しとその安全性については、静岡県「シカ捕獲ハンドブック」で整理されている。